会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（富士見町自治会）
2　日時	平成30年6月16日（土）10：00～11：00
3　場所	白十字林間学校
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、永井主任 （環境事業センター）安齋担当主査、加茂主事 （富士見町自治会）参加人数：47人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●有料化の場合、ごみ袋の作成コストを減らす仕組みは考えているのか。 →ごみ袋を購入する方法でごみ有料化が開始された場合、ごみ袋に係るコストとしては、製造費、運搬費、販売手数料などが想定される。製造費や運搬費に関しては、入札を行うことでコスト削減が見込める。販売手数料は現在販売している大型ごみ証紙との均衡と市民の皆様の購入利便性で検討する必要があると考える。近隣市の状況を見ながら検討していく。 ●戸別収集を行うと、集積場所がなくなると資料に書いてあるが、2つの収集方法を併用することはできないのか。 →他市の例としては、導入当初「可燃ごみ」と「不燃ごみ」のみ戸別収集し、その後段階的に品目を拡大している。現在、藤沢市では「古紙」は集積場所で収集し、それ以外は戸別収集である。 ●ごみ有料化と戸別収集を実施することで、茅ヶ崎市のごみ処理経費はどのくらいになるのか。 →手数料としていただいたお金を施設整備や焼却灰の処理等の一助にすることを考えている。ごみ処理経費がいくら下がるかについては、現段階でシュミレーションできていないが、ごみ処理基本計画のごみ排出量予測から、ごみ処理経費を推計することは可能である。いずれにしても、実施することにより経費が激減するとは考えていない。 ●藤沢市はごみ有料化を実施しているので、実施していない市町村にごみを捨ててしまう事などが懸念される。有料化を検討するに当たり、神奈川県全域を単位として検討を進めることはできないのか。 →茅ヶ崎市がごみ有料化を実施した場合は、不適切な排出については回収しないので、藤沢市との差異がなくなる。そのため、他市からの流入は抑制されるかと思うが、引き続き課題としていく。また、ごみ処理については自治事務であるが、２市１町での湘南東ブロックでは、定期的な会議を開催し、連携している。また、県もアドバイス

	等はくれる。 ●資源化可能なプラスチックが燃やせるごみに混入しているとの事だが、具体的にどのような物か。 →平成２８年度に調査した結果、プラスチック容器包装類としているものが混入している。 ●ごみ袋に排出者の名前を書くのはどうか。 →プライバシーの観点から難しいと考える。他市の例で、記名させているところもあったとのことだが、現在はその方法はとっていない。 ●古紙の資源化を推進しているわりには、古紙の収集日が少ない気がする。前に住んでいた自治体では、毎週収集してくれていた。収集日のスケジュールを変更することは考えているか。 →資源物の中で「廃食用油」や「金属類」などは排出量が少ないため、その収集日減らし、「古紙」の日を増やすなどの検討は、今後進めていきたい。 以上